新潟市歴史資料だより

発行　新潟市歴史文化課 歴史資料整備担当

平成30年6月25日

第 26 号

資料紹介　新潟市初の公式国際大会開催
～旧体育課より引き継ぎの歴史公文書～

掲載した資料は、旧体育課から引き継いだ「アジア卓球選手権文書」の中の、日本卓球協会から若杉元喜新潟市長あてに出された大会開催依頼文と、それに対する回答です。

第９回アジア卓球選手権大会は、昭和63（1988）年５月15日から22日にかけて、前年春にオープンした新潟市産業振興センターを会場に行われました。新潟市にとっては初の公式国際大会であり、約30の国と地域から300名を超える選手が集い、世界トップレベルの熱戦が連日繰り広げられ、期間中約１万８千人の観客を魅了しました。また、大会にはイランとイラク、中国と台湾など緊張関係にある国々が参加し、北朝鮮選手団が大会途中で帰国するなど、スポーツ以外の側面でも大きな注目を集めました。

この大会が開催されることになったのは、昭和61年６月、大会主催者のアジア卓球連合から要請を受けた日本卓球協会が、新潟市での開催を依頼したためでした。新潟市はそれまでも日中卓球交歓大会など、スポーツを通した国際友好に力を入れており、こうした実績が評価されたと考えられています。掲載した依頼文では、ソウルオリンピック前哨戦となる第９回大会を「日本、しかも是非日本海沿岸都市で開催してほしい」と述べられています。

これに対する回答書では、「新潟市といたしましては初めての国際スポーツ大会でもあり受入について慎重に検討した結果標記大会の開催を承諾する」とあり、大会運営を担う責任感とともに国際都市・新潟のイメージアップに向けて、新潟市の大きな決意がうかがえます。

昭和61年10月、新潟市での開催が正式決定すると、翌年５月には若杉市長を会長とする大会組織委員会が発足しました。大会の運営は1,000名を超える市職員と競技役員を中心に行われましたが、200名以上の通訳ボランティアをはじめ、多くの市民・団体が大会運営や友好事業などで大きな力を発揮しました。「深めよう　アジアの友好　新潟で」の大会キャッチフレーズのもと、選手たちが競技の合間に着付け体験やお茶会、餅つきなどの友好事業に参加し、市民との温かい交流が行われました。

その後新潟市は、2002年FIFAサッカーワールドカップをはじめ多くの国際的な大会や会合等の開催地となりましたが、そこにはこの新潟市初の公式国際大会開催の経験が生かされているといえましょう。

第９回アジア卓球選手権大会新潟開催方御願いの件

第９回アジア卓球選手権大会の開催について（回答）

平成29年度事業概要

平成29年度も多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。概要を紹介します。

■資料の公開

歴史資料整備担当では、古文書等の複製資料や、図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所３階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備担当へご連絡ください。今年度の一般利用状況は次のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	39	49	82	14	32	216
複写	36	42	72	13	31	194
掲載	2	0	5	0	26	33
計	77	91	159	27	89	443

（平成30年3月31日現在）

■資料の調査・収集

①歴史資料所在調査

市内の民間や組織が所蔵している歴史資料の現状確認調査を行っています。今年度は中央区（２か所）・秋葉区（２か所）・南区（１か所）・西蒲区（３か所）で調査しました。

②歴史公文書の引き継ぎ

市役所各課等の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保存しています。今年度は178点（紙文書104点、電子文書74点）、文書箱で48箱を引き継ぎました。

■資料の整理・保存

①歴史資料の整理

市へ寄贈された歴史資料の整理・目録作成を行っています。今年度の整理状況は次のとおりです。

文書群名	区分	点数	主な内容
西区寺尾　風間恵子氏旧蔵写真	寄贈	58	新潟まつり写真ほか
西区真砂　小川浩一氏旧蔵資料	寄贈	1	明治期『市勢概観』
西区浦山　加藤功氏旧蔵写真	寄贈	14	市内航空写真ほか
中央区関屋田町　今井氏旧蔵資料	寄贈	76	市内風景写真ほか
西区小針　小沼正敏氏旧蔵資料	寄贈	134	農作業風景写真ほか
中央区学校町通　高橋氏旧蔵資料	寄贈	2	市内航空写真パネル
中央区古町通　吉野家文書	寄贈	34	スライド･写真ほか
西区内野町　樋木氏旧蔵資料	寄贈	1	大火後の内野町写真
秋葉区大安寺　井浦家文書	寄贈	3608	農協関係資料ほか
西蒲区巻　沢野家所蔵収集資料	寄贈	341	近代運送業資料ほか
中央区　藤本写真館旧蔵写真	寄贈	2	近代写真アルバム

②歴史資料のマイクロフィルム撮影と複製本の作成

歴史資料のマイクロフィルム撮影およびデータ化と、焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルム本数は21本、作成した複製本は次のとおりです。

・坂口家文書（近世後期～昭和期）
　簿冊数：64冊（データ化したDVD：２枚）
・新潟ハイカラ文庫所蔵文書（明治期）
　簿冊数：５冊（データ化したDVD：１枚）
・杉山巖氏収集文書（近世）
　簿冊数：２冊（データ化したDVD：１枚）
・味方村古文書（第二部）（近世～昭和期）
　簿冊数：46冊（データ化したDVD：１枚）

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

９月２・23日、10月７日に、新潟市万代市民会館で歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、毎回200名を超える多くの方々にご参加いただきました。各回の講義名と講師は次のとおりです。

日程	講義名	講師
9/2	山際シキと日露戦争	新潟県立文書館嘱託員　横山　真一
	中野家文書に見る明治末期の原油川船輸送	歴史文化課　有田　一正
9/23	人の移動を通して見る江戸時代の新潟	元新潟県文化行政課長　本田　雄二
	沼垂と鮭　～沼垂の鮭関係資料を読む～	歴史文化課　高野まりい
10/7	新潟町と堀直寄	東京大学史料編纂所　学術支援専門職員　杉山　巖
	戦国期の「新潟」関係資料を読む　～「蒲原郡平嶋之郷新潟津」を考える～	歴史文化課　長谷川　伸

■区制移行10周年記念事業「新潟市のあゆみ」講座の開催

平成27年度に発行した歴史パンフレット「新潟市のあゆみ」をテキストとする講座を開催しました。

平成29年度は西蒲区（参加者78名）、南区（参加者60名）、江南区（参加者145名）、秋葉区（参加者101名）、西区（参加者121名）、北区（参加者154名）で開催し、市内外から多くの方々にご参加いただきました。今年度も開催予定です。

新潟開港150周年記念事業「みなとまち新潟　歴史探訪」紹介

2019年１月１日、新潟は開港150周年を迎えます。これを記念して新潟市では、「海フェスタにいがた」や、「水と土の芸術祭」など様々な事業を予定しています。歴史文化課では、この記念事業の一環として、「みなとまち新潟　歴史探訪」というタイトルで、市報にいがたの中でコラムの連載を行っています。掲載は各月１回ずつの予定です（７月号は夏休み特集号のためお休み）。

この連載は、開港150周年に先立ち、みなとまちとしての新潟の歴史や文化を、広く市民の皆さんに再認識・再発見してもらうことが目的です。連載は昨年８月から行っており、現在まで計11便が掲載されました。

各回１つのテーマに沿って、絵図や写真を使いながらみなとまち新潟の歴史や文化を紹介しています。これまでの掲載内容を一部紹介します。

連載開始の第１便では、「三ヶ津（さんかつ）の時代～みなとまち新潟のルーツ」と題して、戦国時代に上杉氏が支配した、「蒲原」・「沼垂」・「新潟」の３つの湊を取り上げました。また、現在も使われている地名が、昔の文献にはどのような表記で登場するのか、“豆知識”として紹介しています。

新連載　新潟開港150周年記念
みなとまち新潟　歴史探訪①

新潟港は2019年１月１日に開港150周年を迎えます。今号から、みなとまちとしての新潟の歴史を市民の皆さんに再発見してもらう「みなとまち新潟　歴史探訪」の連載を始めます。
問歴史文化課（☎025-226-2584）

三ヶ津（さんかつ）の時代～みなとまち新潟のルーツ

上杉謙信・景勝が活躍した戦国時代、信濃川と阿賀野川の河口には蒲原津・沼垂湊・新潟津の３つのみなと（津・湊）がありました。

文献上の最初の湊は「蒲原津」で、およそ千年前から越後の国津（くにのみなと）でした。鎌倉・室町時代には「沼垂湊」が現れ、この２つの湊は蒲原平野の大小の川や潟湖（せきこ）をつなぐ舟運の駅して栄えました。その後、1520年頃には「新潟津」が登場します。上杉氏は、この３つのみなとを「三ヶ津」として把握し、流通や交通、軍事の拠点として支配しました。

豆知識　～戦国時代の「三ヶ津」の表記

1564年６～７月にかけ、京都・醍醐（だいご）寺の僧が越後国内を巡行した時の費用などを記載した「北国下り遣足帳（ほくこくくだりつかいたりちょう）」という帳簿には、新潟は「ニイカタ」「新方」、蒲原は「上原」「神原」、沼垂は「ノッタリ」と登場します。当時これら三ヶ津の間は、渡し船を使って移動していました。

第1便「三ヶ津の時代」（市報にいがた2017年8月20日号）

第５便では、楽しみながら歴史を知ってもらおうと、新潟開港に関するクイズを掲載しました。井上文昌が描いた「新潟湊之真景」を題材に出題し、開港前の新潟に異国船が来航し、湊や町の調査を行ったことを紹介しました。

新潟開港150周年記念
みなとまち新潟　歴史探訪⑤　問歴史文化課（☎025-226-2584）

開港150周年クイズ

右の絵は、江戸時代末期の新潟湊を描いたものです。
日本の船とともに外国船が描かれています。

問題

この絵の外国船が新潟に来航した理由は、次のうちどれでしょう。

①日本との交易のため
②湊の調査をするため
③食料や水を調達するため

井上文昌画「新潟湊之真景」（歴史博物館みなとびあ蔵）

答えと解説

この絵は井上文昌が描いた「新潟湊之真景」という木版画で、安政６（1859）年にロシア船とオランダ船が新潟湊の調査で来航したことが題材となっています。安政５年、幕府がアメリカなど５カ国と条約を結び、外国と交易を行うために５つの港を開くことになりました。その開港場の一つに新潟が選ばれたことで、各国の調査船が新潟湊を訪れました。湊の水深の測量や町の調査など、新潟が開港場として適切かどうか見極めることが目的でした。従って正解は②です。外国船の来航は、開港前の新潟に異国の風を吹き込みました。

第5便「開港150周年クイズ」（市報にいがた2017年12月10日号）

このほかにも、松ケ崎堀割の決壊といった歴史的な出来事から、新潟と鮭の関わりなどの食文化まで、幅広いテーマを取り上げ、様々な角度からみなとまち新潟の魅力を紹介してきました。

【これまでの連載内容】

第１便　三ヶ津の時代～みなとまち新潟のルーツ
第２便　信濃川と阿賀野川の河口が一つになった！
第３便　“みなとまち新潟”を感じられる場所
第４便　江戸時代の新潟湊は大にぎわい
第５便　開港150周年クイズ
第６便　塩鮭の支出額が１位！？～新潟と鮭のはなし
第７便　冬の新潟湊
第８便　抜けちゃった阿賀野川～新潟湊に与えた影響
第９便　「水戸教」は新潟湊の案内人
第10便　近代的港湾への変貌～新潟築港
第11便　住吉行列と湊祭

市民の皆さんからは、内容に関するお問い合わせのほかに、「次回の掲載を楽しみにしています」「毎号スクラップをしています」といったお声をいただいています。

連載も佳境を迎え、残すところあと４便となりました。11月の最終便まで、より多くの方に読んでいただき、楽しみながらみなとまち新潟の魅力を感じていただければと思います。

写真紹介
昭和28年内野大火からの復興

一昨年、糸魚川市で発生した大規模火災が記憶に新しいところですが、新潟市域でも大火による災禍が繰り返されてきました。

今回紹介するのは、昭和28（1953）年12月10日に発生した内野大火の写真です。夕方５時前に発生した火災は、平均風速13mの強風にあおられ、内野町（現西区）の中心市街地に燃え広がりました。鎮火までに４時間以上を費やし、約46,000平方メートルを焼失する大火災となりました。

写真１　内野町の樋木尚一郎氏から寄贈された額装写真の一部で、青池国政氏が撮影したものです。まだ所々から白煙が上がっており、鎮火して間もない写真と推定されます。中央に見える交差点が内野四つ角です。火は写真の左から右の方向に燃え広がり、128戸が被災しました。右奥の山手に見える内野小学校は被害をまぬがれ、被災者の避難所となりました。内野小学校では、周辺の坂井輪村・中野小屋村･赤塚村の協力により､炊き出しが行われました。

写真２　撮影者の青池国政氏が、内野小学校の子どもたちのために作った教材用スライドです。内野大火をカラーで記録した貴重なもので、今年１月に内野小学校から歴史文化課に移管されました。写真１と同じ角度から撮影されたもので、見比べると、建物の再建が始まっている様子が見られます。復興に向けた動きが感じられる一枚です。

写真３　写真２と同様、内野小学校から移管されたスライドです。弥彦街道（県道新潟寺泊線）沿いの衣料品店や薬局や靴店などの営業が再開されている様子が分かります。県は火災から５日後に復興に向けた「新道路網計画」を策定し、町の中心部を横断する弥彦街道を５ｍから18ｍに拡幅することを決定しました。電柱と電柱の間が元々の道路の幅です。大火前はそのギリギリまで建物が立ち並んでいましたが､この写真から､道路の拡幅に伴って少し奥まったところに建物を再建していることが分かります。

市民の皆様へのお願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、お知らせください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

写真1　大火直後の内野四つ角周辺

写真２　建物の再建が始まった町の様子

写真３　道路の拡幅が決まった弥彦街道

編集・発行　新潟市文化スポーツ部
歴史文化課　歴史資料整備担当

〒951-8550　新潟市中央区学校町通1番町602番地1
（白山浦庁舎1号棟1階）
TEL 025-226-2584　FAX 025-230-0412
Eメール　rekishi@city.niigata.lg.jp